聖霊降臨後第２４主日　　２０２６年１１月　８日

風のように　甘木教会



主任牧師：崔大凡　　牧会委嘱牧師：竹田孝一

だから、目を覚ましていなさい。あなたがたは、その日、その時を知らないのだから。　　マタイによる福音書25:１３

【説教要旨】

世間は早くもクリスマス・シーズンに入っているのです。店に、デパートにクリスマスグッズでいっぱいに溢れています。

世間の時の速さには驚きであります。しかし、私たちも教会の暦は、来るべきクリスマスを待っています。同時に教会の暦が終わりということを学ぶ、時を生活しています。私たちは、終わりということを心鎮めて思う時です。教会の聖書日課は、終末にむけて待つということはどのようなことであるかということを聞いていく時なのです。今日の聖書日課、「十人のおとめのたとえ」は終末を待つ者の教えです。「だから、目を覚ましていなさい。」とありますように主が再び来られることいつも目を覚まして生きるというのが私たちクリスチャンの生き方なのです。

ディートリッヒ・ボンヘッファー牧師は、私たちの生について次のように言っています。

「＜隠れているもの＞と＜あらわれにされているもの＞、＜秘密にされているもの＞と＜公然としているもの＞がある。我々は、あらわな、誰にでも見える生を営むと同時に、自分以外の人間は決して経験するはずない思いや、感情や、希望を抱いて、隠された生を営んでいる。もしいつの日にか、我々の思いや感情のすべてが明らかにされるのだと知ったら、我々は身もすくむような恐怖に捕らわれるであろう。・・・さらに付け加えるなら、我々の銘は区別があると思われる＜隠れているもの

＞と＜秘密にされているもの＞の間にも、神の前では区別がない。・・・・だから神の前ではあらわにならざるをえないのである。だから神の前では、もはや秘密はないのである。それだから、あらゆるものの終わりがくるとしたら、それは神と人間のあらゆる秘密が明らかにされるであろう」

終りは「我々は身もすくむような恐怖」な時であるのです。しかし、同時に我々は身もすくむような恐怖の時は、喜びの時でもあるということを聖書は私たちに伝えています。今日の譬である物語は花婿を迎えるという喜ばしい時なのです。なぜなら、私たちはイエスの十字架の出来事において、「我々は身もすくむような恐怖」から引き出されて生きているということです。イエスは十字架において、身もすくむような恐怖にある罪人とともにおられ、死んでくださり罪を担い、赦してくださったのです。敵さえ愛する、イエス・キリストは無条件の愛をもって愛していてくださることを私たちは信じているからです。終わりの「身もすくむような恐怖」は、イエスの十字架の「身もすくむような恐怖」によって克服されて、喜びの時となるのです。ですから終末信仰を強く主張するエホバの証人のように終末を恐れて待つのでなく、終末を喜んで待つものが私たちのです。同じ待つ者であっても、恐れをもって待つ者と喜びをもって待つ者は違ってきます。

テサロニケの手紙で、「キリストに結ばれて死んだ人たちが、まず最初に復活し、 17それから、わたしたち生き残っている者が、空中で主と出会うために、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられます。このようにして、わたしたちはいつまでも主と共にいることになります。」というように終わりの時もわたしたちはいつまでも主と共にいるのです。

決定的な終末は「あなたがたは、その日、その時を知らない」のですが、わたしたちはいつまでも主と共にいる私たちは「賢いおとめたちは、それぞれのともし火と一緒に、壺に油を入れて持っていた。」とありますように「壺に油を入れて」とあ

りますように私たちの壺に「イエス・キリストの無条件の愛」という油が入れられていて、花婿・イエス・キリストを待っているのと同時にわたしたちはいつまでも主と共にいるのです。

私たちの壺に「イエス・キリストの無条件の愛」という油が入れられていて、イエス・キリストと共にいて、花婿・イエス・キリストを待っているのです。だからたとえ花婿の到着が遅れても、時が分からなくても私たちは、十分に用意が共にいて下さるイエス・キリストによって整えられているのです。

ルターの言葉と言われている「たえ、明日が終わりであっても、今日、私はリンゴの苗を植える」というように悠然として終わりを迎えることができるのです。

です。だからたとえ花婿の到着が遅れても、時が分からなくても私たちは、十分に用意が整えられているのです。

ルターの言葉と言われている「たえ、明日が終わりであっても、今日、私はリンゴの苗を植える」というように悠然として終わりを迎えることができるのです。

主が来られる、これは喜びの時です。ですから「だから、目を覚ましていなさい。」という「だから、」という言葉には、あなた方に神の愛が注がれているからという意味もあります。このことに目を覚まして起きなさいと受けとめつつ、終わりに向かって日々を歩んでいきましょう。ここに希望があります。時代はますます私たちに困難さを予見する出来事が起きています。

ルターは95か条の提題・95条で次のように言っています。

95. そしてキリスト者は平安の保証によるよりも、むしろ多くの苦しみによって、天国に入ることを信じなければならない

しかし、キリストに結ばれて死んだ人たちが、まず最初に復活し、 17それから、わたしたち生き残っている者が、空中で主と出会うために、彼らと一緒に雲に包まれて引き上げられます。このようにして、わたしたちはいつまでも主と共にいることになります。

安心して主の再臨を待ちましょう。

牧師室の小窓からのぞいてみると



アメリカの中間選挙は、民主党の勝利で終わった。そのインタビューで年金生活者の方が、涙ながら生活が壊れいく窮状を話していた。解説者の方が、「単に物価があがり、生活が大変だというなら良いが、生活出来ないということは危機ですよ」という内容の話をしていた。民主党の候補が「億万長者や大統領に対する警鐘だ」と言って当選したようにそうだと思う。

権力ある者をその座から引き降ろし、身分の低い者を高く上げ、飢える人を良い物で満たし、富める者を空腹のまま追い返されます。

というマリア讃歌を心に刻んだアメリカとなりますように。

園長・瞑想？迷走記。



教会のバザーに幼稚園は自主的に参加している。バザーは心がから楽しくなるものであってほしいと願っている。

今年は、保育の流れの中で子どもたちが参加出来るプログラムを先生方が作ってくれた。

まず、楽しんでクッキーの型抜きをみんなでした。そして、それをみんなで焼いた。豚汁作りである。子どもたちが野菜を刻んでくれた。それを先生、職員が仕上げてくれた。料理しているとき、先生方から慣れない料理で、子どもたち一人一人がどんなことをしたか子どもたちの様子、物語を聞くことが愉しく出来た。

自分たちが作ったクッキーを子どもたち、卒園生が買いに来てくれた。そして、みんなで楽しく園庭で遊んでいる。同窓会かな。子ども、保護者も先生も、職員も笑顔が絶えない時間を過ごせた。買ったクッキーを私が行っている松崎保育園、ルーテル羽村幼稚園に持っていこう。お裾分け。落ちは松崎保育に持っていくのを忘れていたということかな。忘れ物が多くなりました。



日毎の糧



聖書：神よ、速やかにわたしを救い出し／主よ、わたしを助けてください。　　詩篇７０：２（新共同訳）



ルターの言葉から

聖書は体験しなければ理解しえない。

（『卓上語録』M.ルター著、植田兼義訳、教文館）

詩篇70篇は短い詩篇であるが詩として十分な構成をもっているし、祈りである。

信仰者が苦難の中から救いを求める願いの祈りで、詩の祈り手は自らを『苦しむ者、貧しい者』と告白する（6節）。

神ヤウェは社会弱者の側に立つという信仰は、捕囚期遥かに遡る。すでに預言者アモスが社会的弱者の抑圧を厳しく糾弾したが（アモス２：６、５：１０－１２，８：４他）その背後にはエジプトにおいて奴隷として苦しんだ民の解放を原点とするヤハウェ信仰が横たわる。社会的弱者の保護を定めた社会法の数々もまた出エジプトの出来事に基礎づけられる（出エジプト２２：３０，２３：９，レビ１９：３６、２５：３８、申命記２４：１８他）、そうしたイスラエルの信仰が、一方で、預言者たちの社会批判を基礎づけ、他方で、苦難であえぐ信仰者の大胆な嘆きと訴えの祈りに継承されたのである。

本詩の『苦しむ者、貧しい者』という自己告白も、神ヤウェは『苦しむ者、貧しい者』の抑圧を座視しない、という、古くからの確乎たるヤハウェ信仰に裏付けられている。こうした信仰が、『これらの小さな信仰者の一人をつまずかせる者、彼にとっては、ろばの大きな挽き臼をその首に巻かれて、海に投げ込まれたほうがましである』（マルコ９：４２）というイエスの発言に引き継がれてゆくことはいうまでもない。（詩編の思想と信仰Ⅳ　月本照男　　新教出版」

祈り：神の苦しむ者、貧しい物を座視する目をください。

アーメン。

甘木通信



見よ、私が幸せを見るのは、神から与えられた短い人生の日々・・・　　コヘレト５章１７節

振り返ると

九州に帰って来たのですが、故郷に帰ってきたという気持ちにまではなっていません。こう感じられるのは、場所です。私は筑前（門司)、転勤地は筑後（久留米）ということもあります。まずは、言葉が違う、当然、文化の違いで、香りが違う。それは、いつも旅をしていた私がいたからかもしれません。

18 歳まで九州で過ごし、東京に 6 年間、卒業後、別府 4 年、ブラジル、愛知県刈谷市、静岡市、名古屋市、東京と各地を転勤し、55 年間を旅しているからではないでしょうか。そして、まだ旅を続けているように思います。昨年の大病は、旅が終わりに近づいているように感じさせられました。この頃、過去を振り返ることが多くなりました。

いろいろなことがあったと思います。楽しいことよりも苦しいことが多くありました。今は「あった」としか感じなくなりました。あっという間に過ぎていったようで、短い人生の日々だったと感じています。コヘレト言うように「私が幸せを見るのは、神から与えられた短い人生の日々」ということを感じています。「幸せだった」と言って、神に感謝して、旅を終えそうな気持になります。なぜだろうか。イエス・キリストと出合い、どうにか信仰の道を歩んでこられたからだと心から受け入れられるようになったからだ思います。本当に幸せを見させていただいています。

（甘木日記）土）甘木教会に今日も卒園生が駐車し、また、夕刻に遊びにきてくれる。みんなが憩える場でありたい。日）天に帰られた方々を偲び全聖徒の日の礼拝を守る。午後から、役員会。月）幼稚園願書受付、昨年よりも増えた。希望の灯がつく。火）久留米教会のバザーに幼稚園が自主的に参加。子どもたちが作ったクッキー、刻んだ野菜をいれた豚汁、保護者の出店。楽しかった。水）元気な子どもの補助をする。木）松崎保育園、甘木教会に寄り、夜、東京。金）朝、事務処理の管理者会議。午後から新法の学び。変化していく社会にそれにしても時代に疲れる。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。はぐちらない聖人（牧師）もいますが。

土）朝、子どもたち、保護者、職員が時間を共に過ごすことは心地よいと感じながら松崎保育園の「秋まつり」に参加。ゆっくりと時間を過ごす。共有して癒される。力を得て、甘木教会へ。主日礼拝、役員会の準備。ゆ



っくりした主日の前の時間。誕生日を迎える信徒さんのプレゼントに好きな不二家のペコちゃん飴を購入。日）急に寒くなり 1 時間、遅れて起きる。冬が近づきつつある。空調も少しの時間、暖房する。天に帰られた方々を偲び、全聖徒の日の礼拝を守る。出席者が少ない。いつまでたっても数に拘る自分がいやになる。悟っていない。ポインセチアも赤に、白に変わりつつある。クリスマスは近い。月）合わなくなった眼鏡を変えにいく。いつまで使うか分からないので安い眼鏡にした。病院に検査の結果を聞きに行く。天に帰るのも近いと思い、讃美歌 20 冊を購入し教会へ寄付。幼稚園は出勤日でないが 2027 年度願書受付日であり、明日は教会バザーであるので、夕刻、出勤。火）本日は、久留米教会のバザー。自主的に日善幼稚園も職員全員、保護者、卒園生保護者が参加して子どもたちが作ったクッキー、子どもたちが刻んだ野菜を入れた豚汁。みんなで楽しい時間となった。頑張ってくれた職員にサーティーワンアイスクリームのアイスケーキを購入した。保護者の父さんらは 19 時に居酒屋に集まりクリスマスの劇を考えるらしい。楽しい、楽しい。水）朝、ぎりぎりに園に到着、こどもの補助、礼拝、職員会議、明日の夜から東京の幼稚園の事務処理に行くので、その間を主日の準備をする。夜から冷たい雨。木）朝はゆっくりと松崎保育園で過ごす。聖書の学びはミカ書。小さな者に目を留めてくださる神が私たちの神と強調。礼拝は、感謝祭を意識して、食べる嬉しさは神の恵みと話す。美味しい給食もいただき、雨の中を甘木教会に。教会宛てに届いた荷物が届いていたので郵便局にいくが私の住所が違う私は受け取れないと。誰が見ても牧師の格好ですが。では、再度、配達できますかと聞く、出来ると言うので、日曜日に配達していただくことにした。何か合点がいかない。夕刻、東京に。どうも足が浮腫んでいて調子が今いち。明日の芋ほりは延期と電話が幼稚園から電話がくる。子どもたちはがっかりだろう。でも月曜日がある。ずっと晴れてください。そう、2 日は 2027 年度願書受取日、多くの幼稚園が少子化の影響にあるだろう。我が園もそうだが、日善は昨年よりも多く定員に達しそう。金）事務処理と新法の学び。新法は教育現場に？かな。

